

自殺予防対策のこれまでの取組

年度	庁内連絡会	研修会	啓発
平成 24年度	<u>庁内連絡会の発足</u> 自殺の現状把握を目的として、兵庫県芦屋健康福祉事務所の美濃課長を講師として「兵庫県の自殺対策や自殺の現状」について講話を依頼 ※京丹後市における「自殺のない社会づくり市区町村会」への参加案内を契機に、まずは庁内連携の強化を図るため発足	未実施	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズの配布 ② 啓発グッズの購入・作成（うちわ、入浴剤） ③ のぼりと横断幕の作成、自殺予防対策強化月間の3月に掲示
平成 25年度	<u>庁内連絡会に講師を招いて研修を実施</u> 自殺予防は孤立の予防からという考えのもと、地域活動の中心を担う民生・児童委員を対象に「傾聴」について学習した。また、「自殺予防のための他機関連携の重要性について考える」をテーマに、自殺の原因はうつ病などの精神疾患によるというイメージが強いが、実際は、経済、家族関係等様々なことが原因となっているため、他機関連携の重要性を庁内で共有できた。	対象：民生委員・児童委員 講演「傾聴について」 講師 光風病院 中谷恭子氏（臨床心理士） 対象：庁内連絡会委員 講演：「他機関連携について」 講師：三道政弥氏（弁護士）	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとチラシの配布 ② のぼりと横断幕を、自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示
平成 26年度	<u>庁内連絡会でアンケート調査を実施</u> ① つなぎ先が分からない ② 夜間対応が困難 ③ 主訴が分かりにくい、拒否的な人への対応が困難 ⇒自殺予防の対応マニュアルの作成提案	対象：窓口職場の職員等 講演：「自殺の予防について～自殺を考える人のサインや傾向、声掛けの仕方について～」 講師：岩井圭司氏 （精神科医師・臨床心理士）	① <u>こころの体温計の導入</u> ② 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとチラシの配布 ③ のぼりと横断幕を、自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示
平成 27年度	<u>「窓口対応マニュアル」と「連絡シート」の作成</u> ① 「窓口対応マニュアル」と「連絡シート」の共有・ケースの蓄積 ② 「窓口対応マニュアル」と「連絡シート」の修正	対象：窓口職場の職員等 講演：「自殺の予防について～自殺を考える人のサインや傾向、声掛けの仕方について～」 講師：岩井圭司氏 （精神科医師・臨床心理士）	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとチラシの配布 ② <u>こころの体温計のチラシを作成・配布（関係課窓口での配架と、がんクーポン券とともに送付）</u> ③ のぼりと横断幕を、自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示
平成 28年度	<u>「窓口マニュアル」の作成（「自殺予防対策～対応のポイント～」）</u>	対象：窓口職場の職員等 講演：「自殺の予防について～自殺を考える人のサインや傾向、声掛けの仕方について～」 講師：あけぼの会 小牟禮尚子氏	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとこころの体温計のチラシを配布 ② がんクーポン券とともにこころの体温計のチラシ送付 ③ のぼりを自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示
平成 29年度	<u>自殺予防の計画策定に向けた意見交換</u> ① 庁内連携の意識啓発 ② 自殺予防の計画策定について	対象：窓口職場の職員等 講演：「自殺の現状について～辛い気持ちを抱えるひとへの声掛けの仕方と危険度の図りかた～」 講師：NPO 法人ゲートキーパー支援センター 竹内志津香氏	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとこころの体温計のチラシを配布 ② がんクーポン券とともにこころの体温計のチラシを送付 ③ のぼりを自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示 ④ 啓発グッズ（うちわ）を関係課の窓口配布
平成 30年度	<u>自殺予防対策の情報共有・意見交換</u> ① 自殺の状況について ② 自殺予防対策の取組状況について ③ 自殺対策計画の推進評価委員会の設置について	対象：窓口職場の職員等 講演：① 当事者が語るうつ病の辛さについて ② ゲートキーパー支援研修 講師：NPO 法人 ゲートキーパー支援センター ① 丸田孝之氏 ② 竹内志津香氏	① 「保健福祉フェア」において、啓発グッズとこころの体温計のチラシを配布 ② がんクーポン券とともにこころの体温計のチラシを送付 ③ のぼりを自殺予防週間の9月と自殺予防対策強化月間の3月に掲示